

【主担当 滋賀県立大学】

【副担当 滋賀医科大学、長浜バイオ大学、大津市】

平成27年度 大学・地域連携事業計画

1 事業実施方針

持続可能性あるまちづくり、歴史に学びながら未来を切り拓くまちづくりを進める地域と大学の取組みを支援する。

平成27年度は、大学の持つシーズと地域のニーズのマッチングを図っていくために、地域課題の解決や地域と大学の情報交流の活性化など大学と地域の双方が共に発展できることをめざす事業を展開する。

2 主な取組み

(1) 大学地域連携課題解決支援事業（継続）

地域の課題に関する大学と地域の協働による取組等に対して助成を行い、その成果を大学と地域が共有することで、地域や大学教育等の活性化に寄与することを目指す。さらに、取組成果を共有する場である成果報告会を「大学地域交流フェスタ」として開催する。

(事業概要等)

- ・地域におけるさまざまな課題の解決に向け、教職員、学生と地域の方々が取り組む活動や地域交流プロジェクトに対して、活動助成を行うとともに優れた活動成果に対して表彰を行う。昨年度に引き続き、大学の教職員や学生がゼミナールや自主的に地域の中で取り組む教育研究活動、地域活動、地域交流プロジェクトも助成対象に含めることとし、当コンソーシアム全体として地域課題対応への取組の充実を図る。
- ・採択件数は14件程度とする。助成対象となる活動エリアは県内全域とするが、会員自治体地域における提案課題への取組、活動等に対しては、優先枠を設定する。
- ・各プロジェクトの取組み状況に対するきめ細かなフォローやHP等を通じた情報発信などを充実させ、コンソーシアム全体として相互の交流を活性化させる。

(2) 大学地域連携ネットワーク事業（継続）

地域を知り、地域の魅力を再発見するため、滋賀県におけるさまざまな地域資源の発掘と情報発信に向けて、大学と地域が連携・協働して取り組む。連携協定を締結している滋賀県博物館協議会と引き続き密接な連携を図り、地域や大学における美術館・博物館の利用促進に関する取組み等を進める。

(3) その他

会員自治体に対して、県内の多様な大学とのさらなる交流を促進するため、各大学（特に市域外にあり、これまで連携実績が少ない大学）の知的資源、シーズ等の理解につながる取組を企画・検討する。

3 事業予算（案）

大学地域連携課題解決支援事業	200万円	(30万円増額)
内訳：助成金	180万円	(会員自治体優先枠150千円×8、その他100千円×6)
事務費	20万円	(印刷費、顕彰経費、その他事務経費)

※昨年度の実績と地域課題解決に関するニーズが強いことをふまえ、30万円増額する。

【主担当 立命館大学】

【副担当 滋賀大学、成安造形大学】

平成27年度 学生支援事業計画

(事業計画概要)

1. 平成27年度学生支援事業計画について

学生支援事業計画は、学生支援事業委員会で審議し、担当者会議で実施計画を立案する。

平成26年度実施した2つのプロジェクト（以下「PJ」）について、沖島活性化PJは過年度の1泊2日宿泊研修を進化させ、課題解決型の取り組みとして一定の成果を得た。一方、滋賀県ブランド力向上PJは学生の視点を活かした滋賀県のブランド力向上に貢献する冊子を発行することはできたが、まだまだ改善、発展の余地はある。さらには、沖島活性化PJで「5年後の沖島のあり方」を提案した取り組みは、滋賀県のブランド力向上という目的に合致しているといえる。そのため、平成27年度は上記2つのプロジェクトでの到達点を踏まえ、以下の事業を行うこととする。

(1) コンセプト

学生の力を活かした地域づくりと滋賀の魅力の発掘、発信

(2) テーマ

- ・学生の視点を活かした滋賀の魅力発見と県内外への情報発信案の策定
- ・学生が滋賀の幅広い魅力に気づき、帰属意識を高める仕組みづくり

(3) 目的

- ①地域の人々と交流を通して地域を理解する。
- ②ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。
- ③学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。
- ④琵琶湖だけではない滋賀の奥深い魅力を発信する。
- ⑤事業の取り組み、成果を幅広い層に発信する。
- ⑥プロジェクトでの取り組みを通じて、参加学生の学びと成長に寄与する。

(4) 進め方

学生支援事業に所属する13大学の学生からメンバーを選抜し、上記テーマ（案）をプロジェクト形式で取り組む。テーマを確定するにあたって、また活動を行うにあたって、滋賀県企画調整課や広報課をはじめとした県との連携を高めていきたい。具体的には、県が抱えている課題や学生支援事業の進捗状況を共有し、適宜助言をもらえるような体制を構築したい。そうすることで、滋賀県の課題解決に学生の視点を活かし、また、県との連携を強化することで、学生自身の学びと成長に繋がることが期待でき、双方にとって有意義な取り組みとしたい。

2. 事業予算（案）

『学生が地域理解を深めて地域住民や学生間の交流ができる企画の実施』

学生支援事業 100万円（100万円減額）

（内訳）

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ①会議・広報等の開催経費
（学生旅費・調整費、広報費ポスター等） | 20万円 |
| ②現地調査等の実施経費 | 20万円 |
| ③学生と地域住民との交流企画 | 55万円 |
| ④プロジェクト実施のための勉強会講師招聘 | 5万円 |

以上

【主担当 滋賀医科大学】

【副担当 立命館大学】

平成27年度 高大連携事業計画

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの高大連携事業は、第2ステージにおける新規事業として、規模や分野の異なる加盟大学・短期大学が県下の高校生に滋賀県で学生生活を送ることの意義や魅力が伝わる共同の企画を実施することとされた。

しかし、2年間にわたり実施した共同のオープンキャンパス事業「学びへの誘い」は、所期の成果を得られなかった。一方で、加盟大学の多くは個別に滋賀県教育委員会と連携協定を締結し、夏季に連続して講座を展開している。さらに、各大学・短期大学は独自にオープンキャンパスの開催や出張講義、特定の高等学校との講座開設等の高大連携事業に取り組まれている。

以上のことから、滋賀県内の大学の魅力を組織としてアピールすることに関して、高大連携事業委員会がその任務を継続して取り組む意義が乏しいことから、平成27年度以降は、事業委員会としての活動は廃止することとしたい。

滋賀県の高中生が魅力ある滋賀県の大学・短期大学に進学する機会の提供としての高大連携事業は、その使命を果たせなかったが、滋賀県下の高等学校生徒の進路選択の一つとして本コンソーシアム加盟大学・短期大学を検討の対象としてもらうための課題や方法の検討については、今後、滋賀県教育委員会等と引き続き協議していく必要がある。

なお、平成25年度から実施している県総合教育センター主催による公立学校教員10年経験者研修への講師派遣に関しては、一旦休止することとし、今後、同センターと協議のうえ、要望があれば個別に対応することとしたい。

【主担当 龍谷大学】

【副担当 滋賀県立大学】

平成27年度 就職支援事業計画

平成27年度の就職支援事業は、「学生の就職支援に直結する事業」「学生の就職準備に関する事業」「大学就職担当者と企業人事採用担当者との情報交換事業」「大学就職担当者間の情報交換事業」「行政機関との連携事業」を実施する。また、他の支援事業とも連携を図り、学生の就職支援に直結する中心事業である合同企業説明会を通じて、県内行政機関の環びわ湖大学・地域コンソーシアムへの入会促進に努めていくとともに、若年者の地元定着への足がかりにしていきたい。

1. 学生の就職に直結する事業

- ・合同企業説明会【事業予算：350,000円】

行政機関、経済団体等と協力し、滋賀県内の優良企業を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングを実現するために「合同企業説明会」を実施する。実施にあたっては、学生にとって効果的なものを目指し、平成25年度同様、県・市・経済団体等が開催する合同企業説明会に共催・協力として取り組む。

なお、平成27年度より経団連の倫理憲章に伴い、活動時期が変更される。このことに伴い、開催時期等については各地域の行政機関等調整し開催することとする。

<平成27年度開催計画>

- ・共催：湖北地区（長浜市・米原市合同）1回、湖東地区（近江八幡市、甲賀市）2回、
湖南地区（大津市）1回（合計4回）
- ・協力：湖北地区（長浜市・米原市合同）1回、湖南地区（滋賀労働局）3回（合計4回）
- ・留学生対象：湖南（滋賀経済産業協会）1回（合計1回）

※平成26年度は行政機関等からの協力要請が多くあり、平成27年度についても行政機関からの協力要請があれば事務局と相談の上、前向きに検討していきたい。

2. 学生の就職準備に関する事業【事業予算：320,000円】

平成24年度より低年次生を対象とした事業として、平成24年度は合同合宿（1泊2日）、平成25年度、平成26年度の2カ年は滋賀県中小企業団体中央会の協力を得て企業訪問会、ミニインターンシップ（平成26年度のみ）を実施してきた。

平成27年度については、滋賀県中小企業団体中央会と協議し、企業見学会に限定せず、就職年次生も含め就職準備に関わる事業を実施する。

※企画内容については、滋賀県中小企業団体中央会と協議し決定する。

- ・就職支援対策講座

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの特長を活かし、低年次から学年、学部、国籍や大学間の垣根を超え、働くことや働き方の意義を学び、就職に必要な知識修得を図る講座を開講する。特に、現在の学生は間違った就職活動を行っている（※テレビコマーシャル等での認知のある会社を志望している）ことから、自治体、地元経済団体等の協力を仰ぎ、地元優良企業の企業見学会や経営者等との懇談会を実施し、地元企業への定着を図る講義も開講する。

<講座内容>

- ・開講期間：2015年11月～2016年2月
- ・開講場所：湖北会場：大学サテライトプラザ・彦根会議室
湖南会場：環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室
- ・開催回数：全6回（湖北・湖南会場：各3回）
- ・講座内容：①働くことの楽しさ（ワーク・ライフ・バランスを考える）

【主担当 滋賀大学】

【副担当 龍谷大学】

平成27年度 単位互換事業計画

単位互換事業委員長校：滋賀大学

1. 事業計画

2015年度の単位互換科目の提供

2015年度の事業計画で、次年度の受講者数の増加方策として、夏期や土曜の集中開講科目の提供、滋賀らしい科目の開発・提供及び参加大学での積極的な広報活動を、参加大学に要請してきた。

2015年度の単位互換科目（予定）は、別紙の「2015年度開講科目一覧」のとおりである。参加大学の特徴的な科目、集中開講の科目、滋賀らしい科目などの科目の提供があり、前年度より12科目多い77科目となった。

なお、夏期や土曜の集中開講の科目、滋賀らしい科目、フィールドワークを取り入れた科目、遠隔講義科目など、次表のとおり特徴的な科目を提供する。

科目名	開講大学	開講形態	科目の特徴
欧米の文化	滋賀大学	春学期集中	
健康の科学	滋賀大学	春学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
歴史からの問い	滋賀大学	春学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
音楽の世界	滋賀大学	秋学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
教育と社会	滋賀大学	秋学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
言語と文化	滋賀大学	秋学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
現代社会と法	滋賀大学	秋学期	大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
滋賀大学で環境を学ぶ	滋賀大学	秋学期	滋賀らしい科目(滋賀県・琵琶湖:環境)、大津・彦根両方のキャンパスで受講可能
彦根・湖東学	滋賀大学	秋学期集中 (土曜4回)	滋賀らしい科目(彦根・湖東:市政、歴史、文化、自然等) フィールドワーク(彦根市周辺、古民家、自然遺産、多賀、佐目の風穴等)、 グループワーク
地域論	滋賀医科大学	後期	滋賀らしい科目(滋賀県:地域、生活、文化) 受講生による調査と発表
近江の歴史と文化	滋賀県立大学	後期	滋賀らしい科目(琵琶湖、交通、歴史遺産)
近江の美	滋賀県立大学	前期	滋賀らしい科目(地域資源、伝統、地域ブランド)
びわこ環境行政論	滋賀県立大学	後期	滋賀らしい科目(琵琶湖環境、環境政策、資源循環)
近江学A	成安造形大学	前期集中	滋賀らしい科目(近江学:自然環境、芸術、歴史、民族、思想、ものづくり)
琵琶湖の民俗史	成安造形大学	後期集中	滋賀らしい科目(琵琶湖を中心とした祭礼・行事・伝承・漁法など)
滋賀論	聖泉大学	前期集中	滋賀らしい科目(滋賀県、琵琶湖:歴史、環境、産業、文化等) クルージング(琵琶湖一周)
滋賀の環境	びわこ学院大学	後期	滋賀らしい科目(自然、生物、環境、生活) 博物館見学
びわ湖・滋賀学	龍谷大学	後期	滋賀らしい科目(滋賀県・琵琶湖:食文化、集水域の暮らし、農業、産業)
ODA・国際援助論 E	立命館大学	夏期集中	

2. 事業予算(案)

単位互換事業	55万円	(5万円増額)
(内訳) ポスター及びチラシ印刷費	35万円	
デザイン・製作費	20万円	

別紙

◀ 2015年度 開講科目一覧 ▶									
科目提供大学	科目番号	科目名	担当者 (フルネーム)	単位数	回生 *1	単位互換定員 *2	開講期間 *3	曜日	時限
滋賀大学	1	欧米の文化	江崎 麻里	2	1以上	10名程度	春学期集中		
滋賀大学	2	自然科学への招待	吉橋 潔	2	1以上	10名程度	春学期	水	1
滋賀大学	3	健康の科学	大平 雅子	2	1以上	10名程度	春学期	火	1
滋賀大学	4	歴史からの問い	坂野 鉄也	2	1以上	10名程度	春学期	火	4
滋賀大学	5	音楽の世界	谷田 博幸	2	1以上	10名程度	秋学期	未定	未定
滋賀大学	6	教育と社会	児玉 奈々	2	1以上	10名程度	秋学期	水	3
滋賀大学	7	言語と文化	野瀬 昌彦	2	1以上	10名程度	秋学期	金	3
滋賀大学	8	経済学からの問い	水谷 剛	2	1以上	10名程度	秋学期	火	4
滋賀大学	9	現代社会と法	坂田 雅夫	2	1以上	10名程度	秋学期	金	1
滋賀大学	10	滋賀大学で環境を学ぶ	田中 勝也・梅澤 直樹・宮本 結佳・市川 智史	2	1以上	10名程度	秋学期	金	4
滋賀大学	11	彦根・湖東学	彦根市長他	2	1以上	10名程度	秋学期集中		
滋賀医科大学	12	医学概論 I	室寺 義仁	2		15	前期	木	2
滋賀医科大学	13	医学概論 II	室寺 義仁	2		15	後期	木	2
滋賀医科大学	14	臨床心理学	小島 隆次	2		不問	前期	火	4
滋賀医科大学	15	臨床コミュニケーション学	瀧川 薫	2		30	前期	金	3
滋賀医科大学	16	地域論	兼重 努	2		不問	後期	木	4
滋賀医科大学	17	睡眠学概論	宮崎 総一郎	2		10	前期	金	1
滋賀県立大学	18	地域産業・企業から学ぶ社長講義	菊地 憲次	2	1以上	10名程度	前期(4/13~7/27)	月	4時限(14:50~16:20)
滋賀県立大学	19	近江の歴史と文化	京楽 真帆子	2	1以上	10名程度	後期(10/5~2/1)	月	4時限(14:50~16:20)
滋賀県立大学	20	近江の美	印南 比呂志	2	1以上	10名程度	前期(4/13~7/27)	月	4時限(14:50~16:20)
滋賀県立大学	21	びわこ環境行政論	井手 慎司	2	1以上	10名程度	後期(10/5~2/1)	月	4時限(14:50~16:20)
滋賀短期大学	22	調理学	中平 真由巳	2	1以上	若干名	前期	金	1
滋賀短期大学	23	カラーコーディネート論	戸田 賀志子	2	1以上	若干名	前期	月	3
滋賀短期大学	24	和服構成実習	戸田 賀志子	1	1以上	若干名	前期	月	1
滋賀短期大学	25	生活工芸演習	戸田 賀志子	1	1以上	若干名	後期	金	2
滋賀短期大学	26	社会福祉	松木 宏史	2	1以上	若干名	前期	月	1
滋賀短期大学								水	4
滋賀短期大学	27	オフィス総論	清水 たま子	2	1以上	若干名	前期	火	4
滋賀短期大学	28	秘書実務 I	清水 たま子	1	1以上	若干名	前期	金	1
滋賀短期大学	29	秘書実務 II	清水 たま子	1	1以上	若干名	後期	金	4
滋賀文教短期大学	30	書道 I	猪飼和喜夫	2	1以上	若干名	春学期	火	3
滋賀文教短期大学	31	書道 II	猪飼和喜夫	2	1以上	若干名	秋学期	火	3
滋賀文教短期大学	32	近代の文学	戸塚麻子	2	1以上	若干名	春学期	木	1
成安造形大学	33	近江学A	木村 至宏	2	1以上	10名程度	前期集中		
成安造形大学	34	琵琶湖の民俗史	木村 至宏	2	1以上	10名程度	後期集中		
成安造形大学	35	西洋美術史A	千速 敏男	2	2以上	10名程度	前期	火	1
成安造形大学	36	西洋美術史B	千速 敏男	2	2以上	10名程度	後期	火	1
成安造形大学	37	デザイン史概説A	鳥先 京一	2	1以上	10名程度	前期	火	2
成安造形大学	38	デザイン史概説B	鳥先 京一	2	1以上	10名程度	後期	火	2
成安造形大学	39	東洋・日本美術史概説A	小峯 善通	2	1以上	10名程度	前期	水	1
成安造形大学	40	東洋・日本美術史概説B	小峯 善通	2	1以上	10名程度	後期	水	1
聖泉大学	41	滋賀論	森雄二郎	2	1以上	若干名	前期集中	5月~7月予定	
聖泉大学	42	心理学概論	新美秀和	2	1以上	若干名	前期	月	2
聖泉大学	43	現代人と健康	炭谷将史	2	1以上	若干名	後期	水	2
長浜バイオ大学	44	生物学基礎	岩本 昌子	2	1以上	5名以内	前期	月	2
長浜バイオ大学	45	エッセンシャル生物学 I	蔡 晃植	2	1以上	5名以内	前期	月	3
長浜バイオ大学	46	基礎微生物学	大島 淳	2	2以上	5名以内	前期	月	2
長浜バイオ大学	47	遺伝子工学	大島 淳	2	2以上	5名以内	後期	月	1
びわこ学院大学	48	子どもの心理	那須 光章	2	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	49	子ども学総論	鈴木 敬史 鳥野	2	1以上	若干名	前期		
びわこ学院大学	50	滋賀の環境	佐々木 和之	2	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	51	特別支援教育論(初等)	藤井 茂樹	2	1以上	若干名	前期		
びわこ学院大学	52	スポーツバイオメカニクス	福岡 純史	2	2以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	53	メンタルトレーニング論	竹内 早耶香	2	2以上	若干名	前期		
びわこ学院大学	54	ビジネスコミュニケーション	牧田 衛活	2	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	55	日本語表現 I	神田 卓朗	2	1以上	若干名	前期		
びわこ学院大学	56	日本語表現 II	神田 卓朗	2	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	57	人間関係とコミュニケーション演習A	原田 直子	1	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	58	人間関係とコミュニケーション演習B	前田 真里	1	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	59	生活と福祉	片山 弘紀	2	1以上	若干名	後期		
びわこ学院大学	60	レクリエーション論	山ノ井 勉	2	1以上	若干名	後期		
びわこ成蹊スポーツ大学	61	衛生・公衆衛生学	金森 雅夫	2	1	若干名	前期	火	1
びわこ成蹊スポーツ大学	62	スポーツバイオメカニクス	高橋 佳三	2	1	若干名	後期	火	2
龍谷大学	63	里山学	宮浦 富保 他	2		10名	前期	月	3
龍谷大学	64	環境と人間A	竺 文彦	2	2以上	20名	前期	月	4
龍谷大学	65	地域関係論	三谷 はるよ	2	2以上	不問	前期	月	3
龍谷大学	66	ジャーナリズム論 I	李 相哲	2	2以上	不問	前期	火	2
龍谷大学	67	まちおこし論	笠井 賢紀	2	2以上	不問	前期	火	2
龍谷大学	68	生活の中の数学	國府 宏枝	2		15名	前期	水	3
龍谷大学	69	人間の心理と発達	金子 龍太郎	2	2以上	不問	前期	木	4
龍谷大学	70	びわ湖・滋賀学	松田 征也 他	2	2以上	不問	後期	水	1
立命館大学	71	ODA・国際援助論 E	向井 一朗	2	3以上	10名程度	夏期集中		
立命館大学	72	科学と技術の歴史 TB	雀部 晶	2		10名程度	後期	火	3(5-6)
立命館大学	73	情報技術と社会 TA	服部 文夫	2		10名程度	前期	水	3(5-6)
立命館大学	74	科学・技術と社会 C	中村 真悟	2		10名程度	後期	月	5(9-10)
立命館大学	75	生命科学と倫理 M	花崎 崎則	2		10名程度	前期	月	5(9-10)
立命館大学	76	薬学概論 Y	土屋 友房	2		10名程度	前期	火	1(1-2)
立命館大学	77	スポーツ栄養学 V	海老 久美子	2	2以上	10名程度	前期	木	3

平成27年度 広報事業計画

ホームページでの情報発信、広報リーフレット作成を継続して行うと共に、諸事業を推進するための広報事業を行う。また、成果発表の場としてのシンポジウムやフォーラムの広報支援や、加盟大学・短期大学の各種イベント案内や学生募集への貢献など効果的な広報活動を展開する。

1. 滋賀の大学・短期大学で学ぶ魅力をアピールする取り組みの強化

これまでの広報事業を基本としつつも、本コンソーシアムの存在感をより高めことと、滋賀県内13の大学・短期大学のそれぞれの教育や研究の特色や魅力を広く伝えること、滋賀県の大学・短期大学で学ぶことの楽しさや魅力をアピールする広報展開を行う。

また、今年度学生支援事業が取り組んでいる滋賀県ブランド力向上プロジェクトでの実践、JR大阪駅で開催した「滋賀・びわ湖ブランド展」に協力した学生サークルの取り組みなど、各大学や地域で活動している学生の取り組み等についても情報発信を行う。

2. 各大学・短期大学、自治体、経済団体と連携した広報展開

各大学・短期大学と連携して公開講座や社会貢献活動、学生募集等に貢献するための広報活動を展開する。また、県内の学生に対して、滋賀県の地域の魅力、県内産業界の特色や可能性などを実感してもらうための多様で効果的な広報展開を工夫する。そのため大学だけではなく、自治体や経済団体などと連携を強める。

3. ホームページの改善・充実

ホームページをより見やすく、必要な情報が検索しやすくするよう改善するとともに、各事業委員会との連携を強化して情報発信を行う。また、本コンソーシアムの事業紹介や滋賀県内の大学・短期大学の魅力を効果的にアピールするように取り組む。

4. リーフレットの活用

内容を改訂したリーフレットを大学・短期大学、自治体、経済界、NPO団体、全国コンソーシアム組織、県内高校、近隣府県の高校へ配布する。また、合同企業説明会や企業人事担当者との懇談会などの機会を活用してリーフレットを積極的に活用し、コンソーシアムの認知度を高める取り組みを強化する。

5. 事業予算案

広報事業 50万円（10万円減額）

（内訳）

- | | |
|---------------|--------------|
| ①ホームページの改善・充実 | 30万円（15万円増額） |
| ②リーフレットの増刷・配布 | 20万円（25万円減額） |

平成 27 年度 滋賀県からの委託事業(大学連携政策研究事業)実施計画

～人口減少社会に立ち向かう大学連携のあり方調査研究～

1. 趣旨

急速な少子高齢化の進行により、滋賀県も徐々に人口減少へと転じつつあり、地域の自然や伝統、人と人とのつながりが失われるなどの地域の活力低下が本格的に懸念されている。

今後、人口減少社会に立ち向かい、持続可能な活力ある豊かな滋賀づくりを推進するためには、県内大学と地域との連携を強化し、大学が有する専門的知見と学生の力を有効に活用する政策の構築が急務である。

このため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムに委託し、人口減少社会に立ち向かう大学連携のあり方について、大学と学生の双方の視点から調査研究を実施し、提言をとりまとめ、今後の大学連携政策の基礎資料とする。なお、収集する基礎データや分析結果は、平成 27 年度に策定予定の「滋賀県人口ビジョン・総合戦略」等にも活用する。

2. 委託内容

(1) 「人口減少社会に立ち向かう大学連携のあり方」に関する提言の取りまとめ (WG)

県内大学の教員等から、人口減少社会における政策等を専門とする学識経験者によるWGを設置し、基礎データの分析や提言の取りまとめを行う。

<提言内容(案)>

- ① 大学の特色を活かした滋賀の活性化
 - ・産学官の連携による経済の活性化
 - ・地域との連携による地域課題への対応
 - ・テーマ別の大学・地域連携の将来展望～文化、スポーツ・健康、医療、福祉、環境、農業～
- ② 学生の力を活かした地域づくりと滋賀の魅力の発掘・発信
 - ・学生の主体的活動の促進
 - ・学生の活動を促進する仕組みの充実
 - ・学生が滋賀に気づき、発信する取組の展開
- ③ 滋賀の学生に、滋賀で就職し、滋賀に住もうと思わせる仕組みづくり
 - ・未来の滋賀を担う多様な人材の育成
 - ・学生ベンチャーを輩出する仕組みと機運の醸成
 - ・滋賀の企業と学生のマッチング支援
 - ・学生の意見をまちづくりに反映する仕組みづくり

(2) 学生会議の設置・運営

県内 13 大学の学生からメンバーを選抜して学生会議を設置し、以下のテーマ等で意見交換し、学生の提案を学生自身がとりまとめ、提言に盛り込む。

- ・学生が地域と連携して主体的に課題解決に取り組む活動の拡充策
- ・学生から見た滋賀の魅力、いいところと悪いところ、学生による魅力発信の方策
- ・学生が滋賀の多様な魅力に親しみ、愛着をもつ仕組みづくり
- ・学生が卒業後もずっと住みたいと思うまちとは、滋賀をそうするためにはどうしたらいい？
- ・学生の職業観、就職における理想と現実、県内への就職者を増やすには？

